

## 2016-17 シーズン活動レポート

兵庫 村原 圭伊子

今シーズン、初級指導員のレベルアップ 3 回、一般会員のレベルアップを 1 回、初級指導員検定 1 回を担当しました。すべての講習で感じたことは、いまだに先落とし（内向内傾）の理解が不十分であるということです。一般会員への教程技術の浸透が希薄なのは仕方がないとしても、現指導員、あるいは指導員検定受講者については残念に思います。膝の屈伸やひねりこみ、上体からの無理なふりこみなど、身体への負担が大きい滑りがいまだに行われています。その背景には、個々の慣れた滑りを変えられない（変えようと思えるほどのインパクトを与えられないこちら側の問題も含め）状況があります。

技術向上を望むクラブ員等に、どうすれば地味だが効率的な滑りである先落とし（内向内傾）を身に付けてもらうか、どのようにすれば皆に理解してもらえるのか？ 地道に何度も、先落とし（内向内傾）、最適ポジションの確認を指導していくしかないのかもしれませんが、裾野にいるスキーヤーに、教程の滑りの良さを伝達することがスキー協の根幹ではありますが、これがなかなか難しいと思われます。来シーズンも、この点を課題に県スキー協の活動に取り組んでいきたいと考えます。